

ISPACS2017 参加報告書

群馬大学大学院 理工学府

小林研究室 修士 2年

熊 軼

1. 参加学会名称

IEEE International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication Systems 2017 (ISPACS2017)

2. 開催場所

Wanda Realm Xiamen North Bay Hotel, Xiamen, China

3. 開催期間

November 6-9, 2017 (渡航期間は November 6-11, 2017)

4. 報告書正文

DAY1 夜中の出発

厦門に行くフライトは11月6日の朝9時55分に成田空港で離陸する予定でしたので、中国留学生たちは夜中の4時ぐらいに各自のアパートからJR桐生駅に歩いて行き、空港バスで成田空港に向かいました。歩いていました際には、本当に寒かったです。



空港バスがきた



飛行日離陸直前



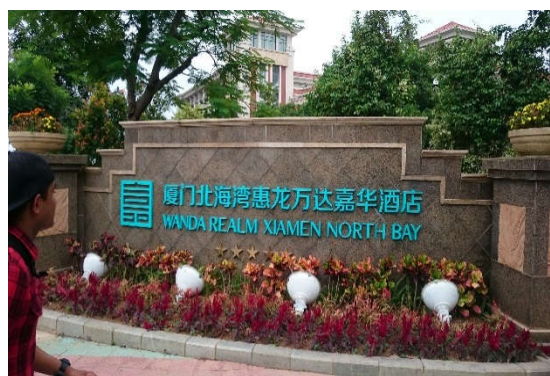
全日空 NH935 便で厦門に行く

約4時間飛行機に乗りまして、ようやく目的地の厦門高崎国際空港に到着しました。チェックアウトが終わったのちに 皆は出口で小林研 OB の林海軍先生に会いました。林先生はとても優しく、わざわざ出迎えにきて、宿泊ホテルへのタクシーも手配しておいてくれました。30分ほどタクシーに乗りまして、宿泊のビジネスホテル「錦江之星」に着きました。

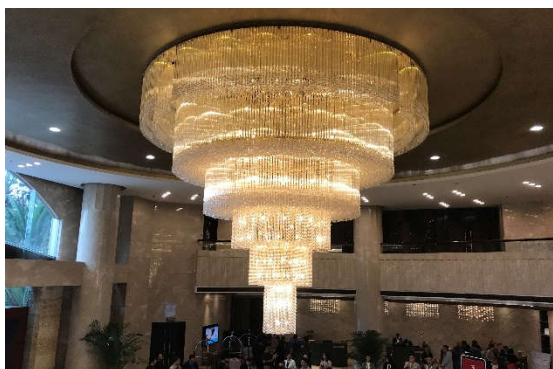
ホテルにチェックインした後に、皆で学会会場のホテル「北海湾惠龙万达嘉华酒店」に行きました。徒歩で5分程度です。5つ星のホテルです。学会のレジストレーションを行い、学会の記念品をもらいました。学会のマークが付いているバッグや論文集のUSBディスク、記念ボールペンなどいろいろあります。学会期間では、食事は全部主催者がこのホテルのダイニングルームで食べ放題の形式で用意してくれました。食べ物の種類がたくさんあり、昼ごはんは皆がいっぱい食べました。



宿泊ホテル「锦江之星」



学会会場のホテル



立派なホール



食べ放題

昼ごはんが終わった後、皆でホテル内の小さい海浜パークで散策しました。厦門は中国の南の方に位置していますので、11月になってもまだ夏の季節です。ホテル周辺の海浜、街中にも熱帯の植物が多いです。タクシー運転手は厦門市を「島の中」と「島の外」の二つの部分で組み合わせています。宿泊ホテル、学会ホテルとも「島の外」、つまり大陸にあります。海浜パークから見えた向こうの島は厦門島です。視線の左側の橋は厦門島を大陸と繋げています。このようなベイブリッジは厦門市に二つあります。

皆で少し散策しまして、海岸の景色を背景にして、集合写真を撮りました。そのあと晩御飯を食べお酒を飲んで疲れをとりながら初日が終わりました。



熱帯の植物が多い



集合写真準備中

DAY2 戦闘開始

しっかり睡眠をとるゆとりもなく、学会の8時30分からの「Open Ceremony」が始まる前に、急いでその開催場所に着きました。主催委員会の方は中国大陸、香港、台湾、シンガポール、アメリカという世界中の大学から来ていました。委員の方々一人ひとりの挨拶が終わって、「Keynote Speakers」の講演会になりました。今回の学会のテーマは「通信&信号処理」がメインなので、講演会の内容もほぼネットワークや画像処理などのテーマです。真剣に聴講しても、なかなか聞き取れませんでした。



学会主催の Chairman からの挨拶



Keynote 講演会

午後はレギュラー発表（研究発表）が始まります。一日目の群馬大学の発表者は中国留学生の王建龍のみです。発表会場の部屋は立派で、大体40人が座れるほど大きいです。各席にメモ用紙や鉛筆が用意されており、発表台にもポインタレーザーが置いてあります。聴講者に優しく、発表者にも安心です。今回の学会は中国で行われるので、Chairmanは何人かの外国人のほかは、殆ど中国人です。当然のことながら国際学会ですので、注意要項の説明や発表後の質疑応答など、全部英語です。同じ国の人たちのお互いに英語でコミュニケーションするのは国際学会のような場合にしか見られないでしょう。

王さんの発表が終わりまして、この日は群馬大学からの発表はないので、宿泊先に帰ると決めました。途中、中国留学生の姚さんから近くに有名な人の記念公園があると聞いて、皆はその公園に向かいました。十分ぐらい歩いて行って、「嘉庚公園」につきました。「嘉庚」とは厦門出身

の華僑、「陳嘉庚」という人の名前です。その公園は1950年に厦門の解放を記念して造営をはじめた庭園で、3万平方メートルの敷地内は中国式の庭園を基本にし、陳嘉庚故居や記念館などが点在し、隣接する鰲園には陳嘉庚のお墓があります。「陳嘉庚」は「厦門大学」の創始者であり、福建省にあるほかの大学の創立にもたくさん貢献しました。「嘉庚公園」は海岸のところにあり、景色が素晴らしかった。これで、ちょっとした観光が終わって学会の一日目が終わりました。



陳嘉庚さんのお墓



遠くの赤屋根の「嘉庚記念館」

DAY3 夜宴

引き続き、学会の二日目が始まりました。今日は群馬大学からの発表者が多くなってきました。井田、高橋、小澤、姚さん、福田、五人が発表しました。幸いなことに、後半の発表のChairmanは小林研のOBの傘先生でしたので緊張が和らぎました。それで、皆さんは少しリラックスして発表できました。この発表会場では、群馬大生からだけでなく、傘先生の東京都市大学の学生も発表しました。面白かったのは、一人の傘先生の学生が小林先生からの質問に対応するときに、何となく日本語が出てきました。そうしたとたん、傘先生は[This is an international conference, no Japanese, no Chinese]と注意し、皆は笑いました。



質問がでる直前



東京都市大学の学生

晩御飯は「Banquet」です。とても美味しいおかずがどんどん出てきました。すべての料理がおいしかったですが、皆に一番人気だったのはやはり「北京ダック」でした。私と同じ丸テーブルに座っていた人たちでは、ほとんど日本人で、初めて「北京ダック」を食べるのです。それで、

私は説明しながら食べ方を示しました。食べると誰も「うまい！」が出てきました。こんなにおいしいのは、おそらく「北京ダック」につける「甜麵醬」のおかげです。

食べ物はもちろん、出し物もすごかったです。楽器演奏、演歌、踊りいろいろありました。最初に出てきたのは中国の民族的な楽器の「琵琶」で、「十面埋伏」という有名な曲を弾いてくれました。皆は驚いたように思いました



北京ダック



「十面埋伏」の演奏

出し物が終わって、一番緊張する時になりました。「優秀論文」の発表が始まりますので約 150 編の論文の中では、5 編がピックアップされて、「優秀論文」になります。司会さんの声が出るにつれて、五つの論文がだんだんスクリーンに出てきました。残念ながら、群馬大学の論文は入りませんでした（信号処理学会のためか、回路分野ではなく「信号処理分野」の論文の受賞がほとんどでした。）私と同じテーブルの早稲田大学の中国留学生が幸いに当たりました。受賞した人は賞状一枚、秘密な封筒一枚もらいました。その後、封筒に入っているのは何かと彼に聞きましたがやはりお金でした！



受賞された 5 人



Banquet の様子

これで、充実した一日が終わりました。明日一番早くから、私の発表になります。二件を発表するので大変ですが、頑張ります。

DAY4 Show Time

ようやく、私の発表になります。他の群馬大学の電源に関する発表は同じ部屋になります(熊、小堀先生、サハン、三木さん、桜井)。群馬大学の他の分野の発表は別の部屋になります(新井、桜井、孫さん、石井)。今日の Chai man も中国人です。私の発表は二つが繋がっているから、一つ目が終わって、止まらないで二つ目を発表し始めたいと思っていた。それで、Chari man に話しかけてみて、優しく同意してくれました。そして、[Show time]になります。



SHOW TIME1



SHOW TIME2

発表時間について、発表そのものが15分で質問は5分です。二つを連続で発表すれば、絶えず30分ほど話す必要があります。幸いなことに私の発表は丁度30分以内で終わりました。一つ目の発表はノートをしっかり準備したから、すらすら話せました。二つ目の発表は、その前に他の場所で一度日本語で発表したことがあるので、ノートをあまり準備しないで平気で発表できました。質問の時、Chariman から「How many times have you done the simulations」と聞かれて、「Many times!」ときっぱり答えました。「What is the result of the comparison?」「As shown in this page...」とあまり間を置かないように答えました。二つ目の質問が終わったとともに、私の発表が終わることになりました。その後小堀先生の発表が終わり、サハンの発表の途中、他の部屋で発表し終わった群馬大生たちは電源の発表の部屋にどんどん入ってきました。

午後、学会の主催団体が予定してくれる観光イベントになります。皆はバスで「老院子」という行楽地に行きました。最初は劇場で「閩南传」という舞台劇を見ました。その劇場は半球の形になって、裏のスペースがものすごく大きいです。座席は全部一つのステージにあって、ステージの下には大きなモーターが設置されています。劇の進みにつれて、360°で回すことができます。劇の内容は福建省の原始時代から近代までの歴史です。劇場内には、人工の山や川などいろいろあって、場面はとてもリアルです。舞台劇が終わって、隣の廟に行きます。その廟は福建省や台湾などの人たちが信じている「妈祖」という神様を供養しています。また、地域住民の生活様子の彫刻の博物館や姓氏の始祖の博物館など設立されている。面白かったのは、小林先生は研究室の中国留学生の苗字を殆ど見つけて写真を撮りました。

(ただ私の苗字だけなかった(▽))。



舞台の出かい座席



御神様の「妈祖」

観光が終わって、小林先生は恐らく疲れ切って、先にホテルに帰りました。残った人は一緒にレストランに行きました。中華料理のほかに、中国式の串焼きも食べました。お酒をいっぱい飲み終わって、皆またデパートの「万达广场」に行きました。「万达广场」は中国ナンバーワン富豪の王 健林さんが創設した大型ショッピングモールです。中国 111 の都市でチェーンで展開しています。皆は正門に入って、歩いているうちに、ユニクロに寄りました。二階に登るとゲームセンターがありました。皆はすぐに入って、遊んできました。石井さんは目に入ったクレーンゲームに近づくと、真剣は表情でゲームを始めました。残念なことに、何回もやっても、人形を一つも取れなかった。一方、小澤さんはとても上手で、早く二つもピックアップしました。一時間ほど楽しんで、ようやくコインが使い切れました。皆はまたお茶の店に移動して、お土産を買って、ホテルに戻りました。充実した一日でした。



ビールだらけ



皆 真剣にやっている

DAY5 「鼓浪嶼」

この日は皆で「鼓浪嶼」に行きました。皆は朝七時半に集合して、「万达广场」の隣にあるバス停でバスに乗りました。途中ベイブリッジを通して、厦門島に入って、渋滞なしで早く波止場に着きました。休日なので、観光客が予想以外に大勢でした。皆九時ごろ早く来ても、一部のチケットはもう売り切れ、一番早いのは十一時半になりました。仕方がないで、ちょっと隣の海浜公園へ散策しに行ってきました。そして、三十分ほどフェリーに乗って、やっと目的地の「鼓浪嶼」につきました。

上陸すると、にぎやかなレストランに寄りました。時間はちょうどお昼になって、皆は食事することにしました。さすが、島にあるレストランで、海鮮だらけです。蟹、エビ、ホタテ、牡蠣、何でもあります。皆は午前中が大変だったので、すべてのおかずを食べました。

そして、元気に回復して、一つ一つの行楽地に行きます。「鼓浪嶼」は2017年に世界遺産に登録され、かなり有名な観光地です。そして、「鼓浪嶼」の行楽地では一番面白いのは「日光岩」です。皆は地図を見ながら、早速「日光岩」に着きました。そして、かなり力を使って頂上まで登りました。ピークで見た景色は素晴らしかった。厦門市の全景が見えて、風も快適でした。向こうの海岸には高いビルが林立し、厦門の経済が早く進んでいると思われま

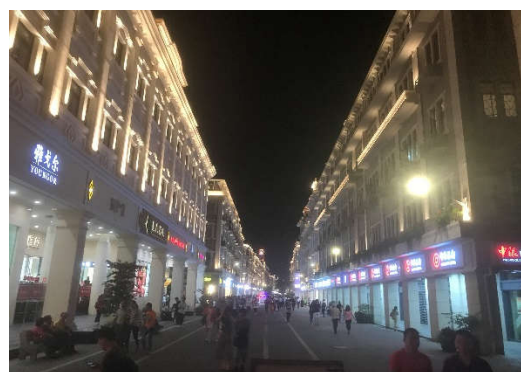
す。そのあと、「鋼琴博物館」や「鄭成功の彫刻」などにいろいろ行きました。晩御飯が終わって、皆またフェリーで商業街の「中山路」に行きました。「大紅袍」、「鉄観音」皆は日本に戻らないうちに、どんどん買って、やはり中国人にも日本人にも、お茶が人気なお土産です。これで、この一週間の旅が終わりました。疲れましたが楽しかったです。



「日光岩」で見た全景



唐絵がかかっているピアノ



「中山路」商業街

DAY6 お帰りなさい

最終日、名残惜しく、また厦門高崎国際空港に行って、日本に戻ります。往路と同じ飛行機に乗って、夜七時半に成田空港に着きました。そして、日本人の学生たちはとても優しく、中国留学生たちを車で桐生へつれていってくれました。この一週間では皆さんは本当にお疲れ様でした。中国留学生の私にとっては、日本人の皆さんがせっかく中国にきて、いろいろ観光してもらってありがとうございました。疲れ切っても、楽しかったです。



謝辞

研究と論文を指導して頂きました小林先生、小堀先生にご感謝いたします。
渡航費を支援してくれました中部電気利用基礎研究振興財団にご感謝いたします。
厦門で色々面倒を見てくれました林 海軍先生にご感謝いたします。
学会を参加させて頂きました ISPACS2017 の主催者と、
主催大学のボランティアさんたちにご感謝いたします。

谢谢

2017年11月19日

